



# Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

## 神戸こども初期急病センター

 2012年8月受診者数：1757人

### 訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 1065人 ( 860人)
2. 咳 : 465人 ( 146人)
3. 鼻汁 : 306人 ( 8人)
4. 嘔吐 : 297人 ( 97人)
5. 発疹 : 215人 ( 178人)

### 疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 734人  
(ヘルパンギーナを含む)
2. 感染性胃腸炎 : 246人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 112人
4. じんま疹 : 81人
5. 気管支炎・肺炎 : 65人



## 今月のワンポイント！

夏休みも終わり 9月になりました。まだまだ暑い日が続いておりますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

さて、神戸こども初期急病センターの8月の総受診者数は1,757人で、前の月(7月)に比べて減少していました。そんな中受診された理由として、最も多かったのはやはり発熱で1065人の方が受診されました。夏はヘルパンギーナやプール熱といったいわゆるウイルスによる“夏風邪”が増えますが、夏風邪からはウイルス性髄膜炎になりやすいことも知られています。発熱のほかに頭痛(特に後頭部痛)や嘔吐が見られる場合は早めに病院を受診してください。その他咳や嘔吐などで受診された方がみられました。

さて、本年9月から不活化ポリオワクチンの接種が始まりました。これまで生ワクチンの経口2回接種だったのが、皮下注射による4回接種となりました。野生のポリオウイルスによる患者さんは1980年を最後に日本ではみられなくなりましたが、南西アジアやアフリカ諸国では依然として猛威を振るっています。日本でもポリオワクチン導入前の1960年代に5000人以上の患者が発生し、大流行したことがあります。ポリオに感染すると一部の方で手足の麻痺がみられ、それが一生残ってしまうことがあります。ポリオ生ワクチンでもごくまれに野生型ポリオと同じ症状がでてしまうことがありました。今回、より安全な不活化ワクチンになり、また11月からは三種混合(百日咳、ジフテリア、破傷風)ワクチンと一緒に(4種混合)になる予定です。対象のお子様がいいらっしゃる方は、医療機関と相談して計画的に予防接種を受けておいてください。

